

食物アレルギーの理解と対応

学校・家庭・地域連携協力推進事業
従事者研修会

本日の内容

- ・食物アレルギーについて
 - ・岐阜県食物アレルギーの実態
 - ・食物アレルギーへの対応
 - ・ヒヤリハット事例
- 

食物アレルギーとは

【定義】

特定の食物による免疫的な機序によって起こる生体にとって不利益な反応

【原因】

鶏卵・乳製品・甲殻類・果物

食物アレルギーの症状

- ・じんましん等皮膚症状
- ・ヒリヒリ、イガイガ等口腔内の症状
- ・腹痛や嘔吐などの消化器症状
- ・ゼーゼー、呼吸困難など呼吸器症状

アナフィラキシーとは

【定義】

アレルギー反応により、
「皮膚症状」「消化器症状」「呼吸器症状」
複数が同時かつ急激に出現した状態

中でも...

血圧が低下し、意識の低下や脱力を来すような場合

アナフィラキシーショック

食物アレルギーの各病型の特徴

①即時型

- ・ほとんどは、この病型に分類
- ・2時間以内に出現
- ・軽い症状からアナフィラキシーショックに進行するものまで様々

食物アレルギーの各病型の特徴

②口腔アレルギー症候群

- ・果物や野菜、木の実に対するアレルギーに多い
- ・食後5分以内に、口腔内のイガイガ等
- ・多くは局所の症状で回復
→5%程度全身的な症状に進行

食物アレルギーの各病型の特徴

③食物依存性運動誘発アナフィラキシー

- ・原因となる食物を摂取後2時間以内に一定の運動をすることにより、アナフィラキシーを起こす
- ・発生した場合、じんましんから始まり、高頻度で呼吸困難やショック症状等重篤な症状に至るため、注意が必要

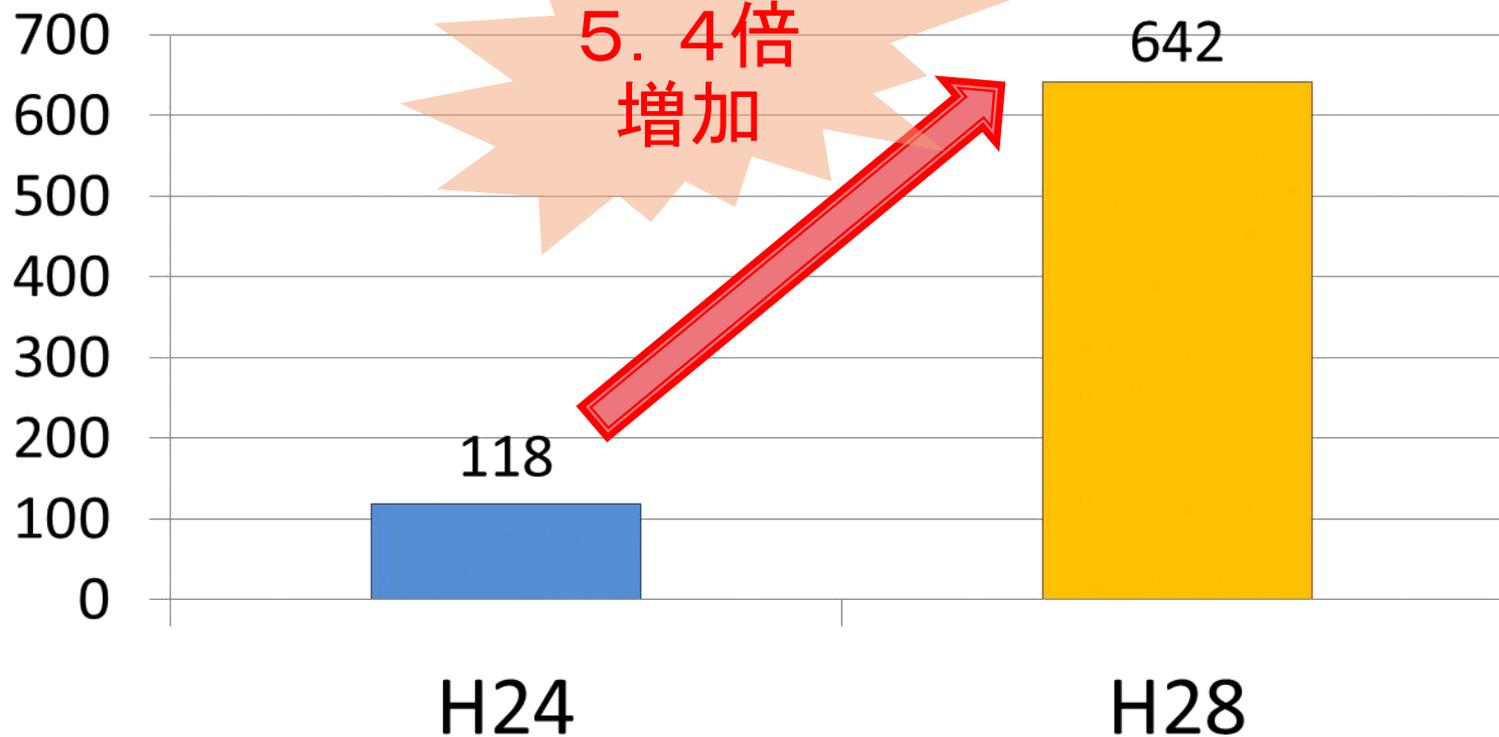
岐阜県の食物アレルギーの実態

県内調査総数 216,539人

項目	人数	割合
食物アレルギーを有する幼児児童生徒数	13,373人	6.2%
学校給食において食物アレルギー対応を必要とする幼児児童生徒数	7,200人	3.3%
エピペン [®] を所持している幼児児童生徒数	642人	0.3%

H28岐阜県教育委員会 調査

エピペンを所持している幼児児童生徒数



H28岐阜県教育委員会 調査

食物アレルギーの予防

原因となる食物を摂取しないこと

事前に確認すること(例)

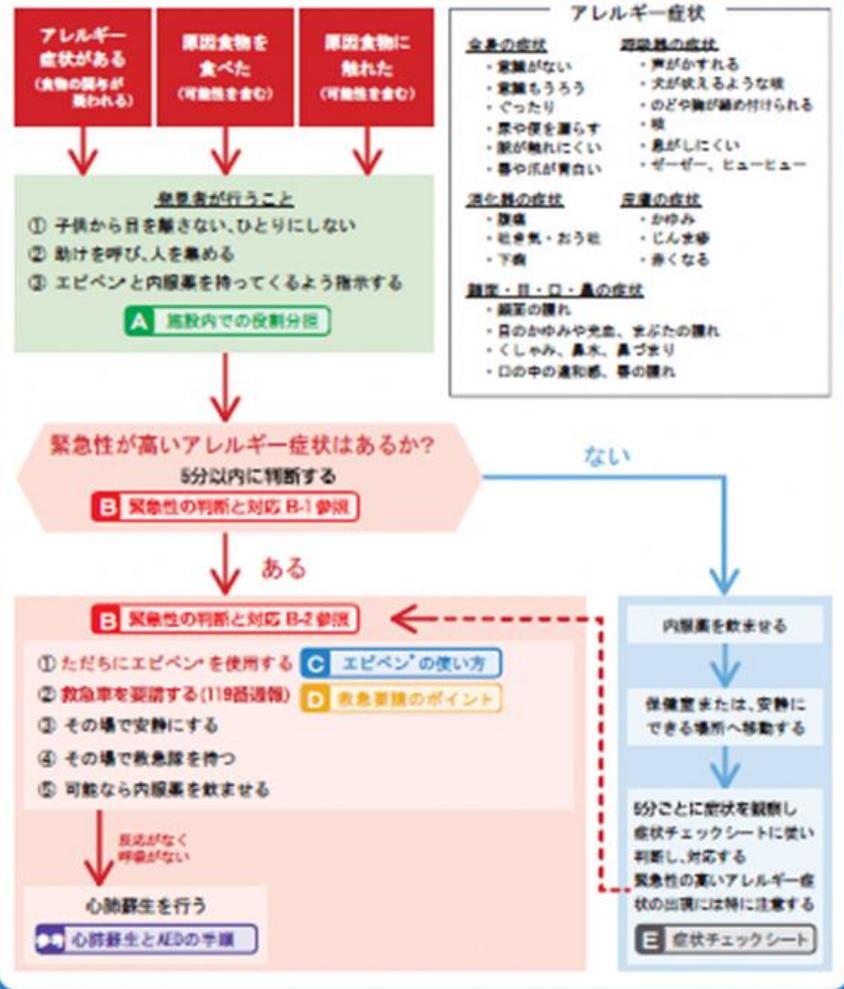
- ・活動場所の環境・・・ソバ殻の有無、
原因食物栽培の有無
- ・提供する食事等の内容・・・食事、おやつの献立と
その成分表
- ・対応可能な医療機関・・・救急車を要請した場合の
所要時間
- ・エピペン®や持参薬の保管場所

緊急時の対応

食物アレルギー 緊急対応マニュアル

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

アレルギー症状への対応の手順



- ・緊急性が高い症状が一つでもあれば、エピペンを使用（マニュアル4P）
- ・救急車の要請
- ・保護者への連絡

B

緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエピペンを打つ！ ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 肌が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

（ぜん息発作と区別できない場合を含む）

【消化器の症状】

- 持続する強い（がまんできない）お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

- ① ただちにエピペン[®]を使用する！

→ C エピペンの使い方

- ② 救急車を要請する(119番通報)

→ D 救急要請のポイント

- ③ その場で安静にする(下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

- ④ その場で救急隊を待つ

- ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

内服薬を飲ませる

保健室または、安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに正しい判断し、対応する緊急性が高いアレルギー症状の出現には特に注意する

E 症状チェックシート

- ◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → 参考 心肺蘇生とAEDの手順

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



自らが低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

・介助者の役割
太ももの付け根と膝をしっかりと抱え、動かないようにする。

C

エピペン®の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け
エピペン®を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手（打つ方の手）
"グー"で握って持ち替えない!

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端
（オレンジ色の部分）を軽くあて、
"カチッ"と音がするまで強く押し
あてそのまま5つ数える

注射した後すぐに抜かない!
押しつけたまま5つ数える!

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン®を太ももから離しオレ
ンジ色のニードルカバーが伸び
ているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝を
しっかりと握え、動かないように固定する

注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中（⑧）よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



E

症状チェックシート

- ◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆ の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 寒戦もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 顔が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が蒼白い		
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1～2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1～2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・鼻・顔面の症状	上記の症状が 1つでもあてはまる場合	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状		<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		1つでもあてはまる場合	1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペン®を使用する
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静を保つ
(立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で
医療機関へ搬送

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、 の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに
医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察

該当する児童生徒の
症状を見届け、注意
深く症状を観察する。

誤飲誤食による食物アレルギーの 未然防止に向けて

ヒヤリ・ハット事例①

- ・小麦アレルギーのある生徒が、職場体験学習へ出かけた際、体験先の店主の気遣いでジュースとクッキーをいただいた。
- ・当該生徒は、自分のアレルギーを自覚していたため、ジュースは飲んだが、クッキーは食べずに包んで帰宅した。

- ・事業所等を訪問すると、小麦を含んだお菓子が出されることがあると考えられる。無理して食べないように、子どもに指導をする。
- ・活動内容がアレルギーの症状の発症につながらないか、お菓子等の提供があるか、事前に十分確認する必要がある。

ヒヤリ・ハット事例②

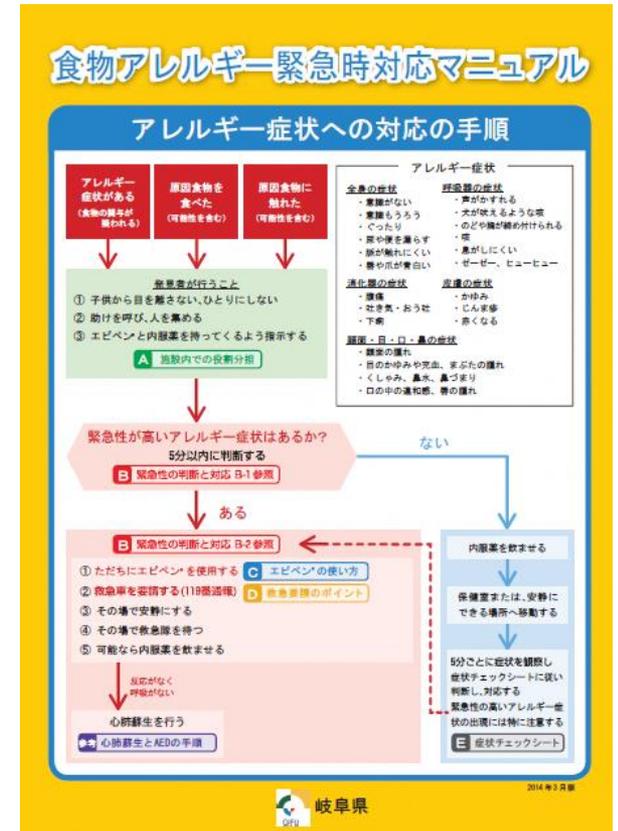
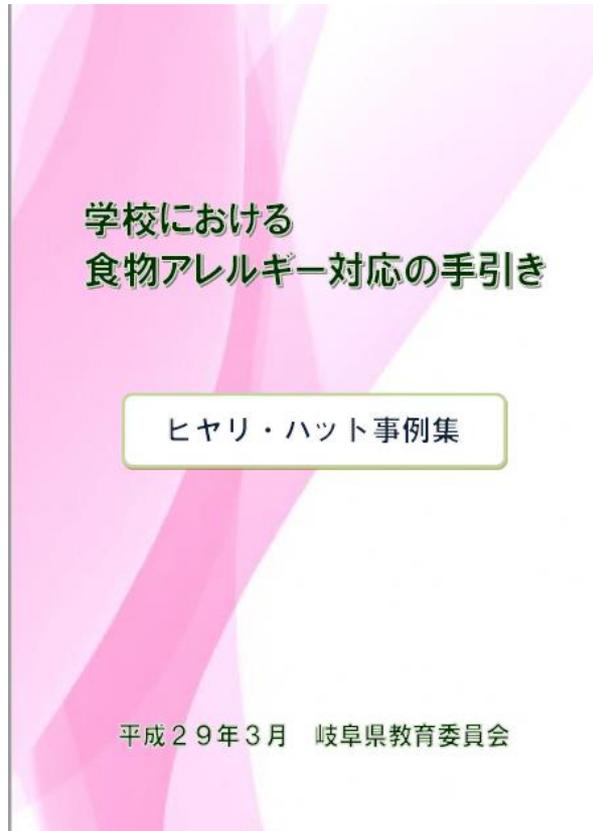
地域の方の厚意でいただいた布製の「お手玉」を園児の遊び道具として大切に使用していた。

遊んでいた園児の一人に突然、咳やくしゃみ、鼻水などの症状が見られた。当該園児が「そばアレルギー」であったため、すぐにお手玉の中身を確認すると、少量の「ソバ殻」が混じっていることが判明。

保護者に連絡し、医療機関を受診することで、ことなきを得た。遊んでいた部屋を換気するとともに、「ソバ殻」のお手玉を捨てた。

- ・教材、遊具を購入する場合、また、地域の方からいただいた場合、内容物についても十分に確認する。
- ・ハチ(昆虫)、ラテックス(天然ゴム)など食物以外のアレルギーもある

岐阜県教育委員会 体育健康課ホームページに掲載



http://www.pref.gifu.lg.jp/kyoiku/gakko-kyoiku/gakko-hoken/c17769/index_10980.html